

(専門科目)

|     |   |       |      |   |
|-----|---|-------|------|---|
| 科目名 | 研究方法特別演習Ⅲ<br>英語名：Special Seminar on<br>Study Method Ⅲ | 必修/選択 | 選択必修 |  |
|     |   | 単位数   | 2単位  |   |
|     |   | 担当教員  | 松浦 均 |   |

【授業概要】

博士学位論文は、著者の一連の研究が一つのストーリーになっていることが重要なポイントである。学位論文の構成において、その意義、アプローチの仕方や方法論、そして数多ある研究のなかでの当該研究のポジションが見事に相まって、そこに研究のオリジナリティが確認される。それゆえの「博士学位論文」である。本演習では、研究を遂行する上での様々な段階での必要な観点や視点、エッセンスについて学修する。演習段階Ⅰでは、教育心理学分野においてメジャーな研究方法である調査法（質問紙法）を中心に据えて、とくにパーソナリティ変数の扱いに焦点を当てながら、データの意味、心理尺度の開発、統計的分析の手法等を理解する。演習段階Ⅱでは、最終的な各自のテーマとリサーチクエスチョン設定、研究計画の立案、学位論文の構成に向けて、重要な諸々の事項についての理解を深めていく。各自の研究の学術的な意義や位置づけ、そして進捗状況等について常にメタ認知をすることを目標としている。

【キーワード】

教育心理学研究法、調査法、パーソナリティ、心理尺度、リサーチクエスチョン、研究計画

【授業の到達目標】

1. 教育心理学における主たる研究法についての基本的な理解。
2. 心理データやその取り扱いについての基本的な理解。
3. 文献や先行研究をレビューしながら、過去から現代までの研究の流れを理解し、また隣接領域との関係性を確認して自身の研究がどこに位置づけられるのか把握できるようになること。
4. 各自の研究テーマに合った研究方法の選択と研究計画を立案すること。
5. 学校教育現場における実践と、心理学的な理論との関連を見だし、理解すること。

【教育の方法】

スクーリングの実施【あり】 スクーリングのメディア受講【可】

【授業計画】

| 回 | 内 容   |
|---|---|
| 1 | オリエンテーション：本演習のねらいと進め方の説明【SC】                      |
| 2 | 教育心理学における研究方法論についての概観と概説、理論ベースの研究と実践ベースの研究に関する議論  |
| 3 | 演習Ⅰ：研究テーマの設定方法：研究デザイン、リサーチクエスチョンの設定と研究計画書の書き方について |
| 4 | 演習Ⅰ：心理データの性質、量的データと質的データについての理解                   |
| 5 | 演習Ⅰ：パーソナリティと心理尺度、信頼性と妥当性についての理解                   |
| 6 | 演習Ⅰ：心理尺度の作り方、変数間の関係についての理解                        |
| 7 | 演習Ⅰ：統計的分析についての概説                                  |

|  |   |
|--|---|
| 8  | 演習段階Ⅰのまとめ：各自の研究テーマやリサーチクエスチョンの検討：中間発表と議論            |
| 9  | 演習Ⅱ：心理学研究法（観察法，面接法，実験法の概説）                          |
| 10   | 演習Ⅱ：文献の検索とアプローチ                                     |
| 11   | 演習Ⅱ：研究倫理に関する諸々のこと                                   |
| 12   | 演習Ⅱ：研究のオリジナリティ、研究の位置づけに関する考え方                       |
| 13   | 演習Ⅱ：研究テーマの設定と方法論の選択                                 |
| 14   | 演習Ⅱ：学位論文の構成について考える                                  |
| 15   | 演習段階Ⅱのまとめと展望：各自の研究テーマとリサーチクエスチョンの設定、研究スケジュールの確認【SC】 |
| <b>試験</b>  |   |
| <b>【履修にあたっての準備・履修上の注意点】</b><br>初回スクーリング受講後は、指定したテキストを読み、教員が提示した課題を行っていく。   |   |
| <b>【スクーリングでの学修内容】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>■ 学修初期のスクーリングでは、この授業の目的や学修（演習）の概要について説明する。学生と教員の間で目指すべきことを共有できたことを確認する。スクーリング前には、各自の研究テーマに関連する先行研究や文献を検索し、読み込んだ上で、各自で検討すべき課題（テーマ）を設定し、その内容を発表する。</li> <li>■ 学修中期では、演習段階Ⅰの内容を踏まえて、各自のテーマにおける問題意識に関して、リサーチクエスチョンの明確化、研究方法・アプローチの方向性について議論をする。研究計画書の書き方についても具体的に指導する。</li> <li>■ 学修終期のスクーリングでは、演習段階Ⅱを踏まえて、引用・参考とする先行研究のレビューを通して、各自の研究遂行のために研究計画を確定していく。また、遂行中の研究の学術誌への投稿に向けての準備を行う。</li> </ul> <p style="text-align: center;">スクーリングはこの2つの時期を含み、合計4コマ6時間以上をめぐり行う。</p> |   |
| <b>【評価方法】</b><br>合否については、各自の研究計画・方法に関するプレゼンテーションとレポート（各25%）、科目修得試験（50%）で評価する。  |   |
| <b>【教科書】</b><br>原岡一馬『心理学研究の基礎』ナカニシヤ出版、2002年<br>吉田寿夫編著『心理学研究法の新しいかたち』誠信書房、2006年   |   |
| <b>【参考図書】</b><br>高橋順一・渡辺文雄・大淵憲一編著『人間科学 研究法ハンドブック』ナカニシヤ出版、1998年<br>日本パーソナリティ心理学会企画 安藤寿康・安藤典明編『事例に学ぶ心理学者のための研究倫理』ナカニシヤ出版、2005年<br>やまだようこ『質的心理学の方法 ―語りをきく―』新曜社、2007年<br>熊谷龍一・荘島宏二郎『教育心理学のための統計学：テストでところをはかる』誠信書房、2017年<br>清水裕士・荘島宏二郎『社会心理学のための統計学：心理尺度の構成と分析』誠信書房、2017年   |   |
| <b>【教員メッセージ】</b><br><ul style="list-style-type: none"> <li>・リサーチクエスチョンが定まるということは、自らのテーマが明確になるということ。自ずと研究の方法論やアプローチの仕方も決まってくるはず。</li> <li>・リサーチクエスチョンを、議論をしながらさらに磨いていきましょう。</li> <li>・自分の研究の先の展望を常に思い描きながら研究を重ねていきましょう。</li> </ul>  |   |
| <b>【備考】</b><br>特記事項なし  |   |